

願いは香りの中に秘かに隠されていた

香りの神秘

— 香りとの出会い編 —



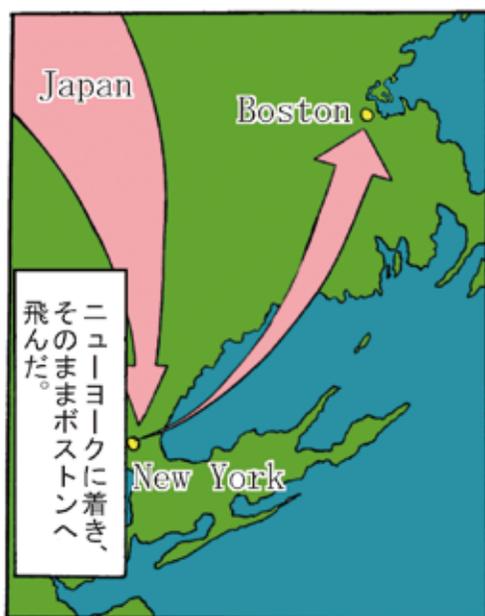


はらのせいすけ
原野晴介 41歳
26歳の時に、
現株式会社NKEを
起業した。











まるで血の気のない機械のような彼女に促され、堅山氏と対面した。

こちらにどうぞ。



原野氏を迎えたのは、不思議な香りの水を作ったといわれる堅山という男の妻だった。



生活感のない、モデルルームのような部屋に通された原野氏。



本当にそんなものが...

張り詰めた空気の中、疑問を一言投げかけた。

パチ



この時、当の堅山氏は
微動だにせず
即、こう答えた。

世の中に効くものは
ごまんとあります。

しかし、効くだけでは
死にますよ。

微塵の揺らぎもなく、
威風堂々と返された
原野氏は…

そう…ですね。

と、答えるのが
やっとだった。



日本に持って
帰りたいですか？

是非
頂きたいです。

堅山氏は対面して
5分も経たずに、
2冊の書類を
差し出した。

独占的販売契約書

契約日:1998, 6, 13

恐る恐る
めくってみると
そこには…



そんな内容にも
関わらず、原野氏は
何かを感じ取り
迷いもなくサインを
してしまった。



契約金
1億2千万円という
とんでもない額面が
記されていた。しかも
支払期日が12日後！

120,000,000
支払期日
1998, 6, 25



ところで：
これは何ですか？

香りだけが
秘かに水の中に
現れたものです。



神様は、秘かに
香りの中に答えを
隠していたようです。

カラリー

栄養と色素は
一切入っていない、
植物の香りだけが
入った水だと
堅山氏と言う。



宿泊先ホテル

どう思う？
これ……



アロマ水の偶然の発見と
そこに至るまでの
異常な話に、原野氏は
じっと耳を傾けていた。





植物の種類により
様々な神業を
引き出すアロマ水。

最初の契約時は、
緑豆の香りが
凄いと思わせておいて、
まさか他に…



9月に
渡米した時…

実は…
アロマ水は契約頂いた
緑豆以外からも作れます。



他のアロマ水は
どうされますか？

しかしその後も
渡米の度に…

この時は本当に
そう思い、植物全ての
アロマ水の追加契約を
3ヵ月後の9月に
2億
で
交わす事になった。

これ程人類に
貢献できるものを
発見した彼に、
役立つことが
あるなら全財産を
投げて構わない…

実は…アロマ水は
植物だけでなく
動物や鉱物からも…

次から次に！
新しい権利を小出しにして
契約金の要求が…



これ以上は
無理です！

いくらなんでも
詐欺師の様なやり方だ！
彼は悪魔なのか!?

異変が
起きたのは
それからである。

なんだ…これは。

その日を境に
カビが生じた
アロマ水が送られて
くるようになった。

商品の変質については
契約上、当方では
責任は負いません。

支払いが
なければ契約は
破棄されます。
毎月の
最低購入義務の
500万円は
入金して
ください。

堅山の
悪意に満ちた
行為が始まった。
カビ入りの
販売できない
劣悪な商品を
毎月購入し、
大量に抱えたまま
半年が過ぎた。
そんな時：

来月から価格を倍にします。
価格協議が整わない場合は、
契約書上、出荷を
見合わせます。

ついに原野氏は
決心する。

もうこれ以上：
彼とは関われない。

裁判だ！

原野氏は
アメリカへ飛び
弁護士を雇い、
ニューヨークで
訴訟を起したのである。

契約書上、勝ち目は
ありませんね。

負けても構わない！
はじめをつけたい。

それは実に
4年半と長く、
弁護費用は
2億を超えた。
厳しい戦いの末……



これで全てに決着が
着いたかに思われたが
……



判決の日、
原野氏は完全勝訴！
24億円の請求権の
判決を得た。



24億円の賠償金が
支払われない!?

カッ
カッ

しかし…



唯一、
アロマ抽出機があると
弁護士から聞き、
原野氏は再び
アメリカへ……

もう二度と
行くことはない
と思っていただけ……



堅山は裁判に
負けることを察し、
全ての財産を他に
移した上で破産を
申し立てた。

ミスター・ハラノ……
あなたは
勝っただけなのです。



機械を
差し押さえていた
債権者と話し合い、
奇跡的にその機械を
買い取った。



※香りの水は医薬品又は医薬部外品ではありません。
ゆえに、薬のような効果・効能は一切ありません。

2012年7月25日 発行

制作 エバブラメディアサービス株式会社

作画 朴月 高之